

令和元年度第3回国分寺市地域福祉推進協議会 議事録

日時：令和2年2月19日（水）
午後6時30分～午後7時30分
会場：cocobunjiプラザ リオンホール

出席委員 59名

事務局 地域共生推進課長（近藤），地域共生推進課地域づくり担当係長（渡部）
地域づくり担当係員（米田）

次第

- 1 「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価報告書（平成30年度）」及び「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度に対する国分寺市地域福祉推進協議会の意見・感想と市の考え方」について【資料1】
- 2 今年度の取組の振り返りについて【資料2】
 - ・山内 敦 委員（社会福祉法人 AnnBee）
 - ・林 博行 委員（国分寺市“社会を明るくする運動”推進委員会）
- 3 グループワーク～活動への想いをシェアする～【資料5】
- 4 国分寺市地域福祉推進協議会令和2年度委員への御継続及び委員候補者の御紹介について【資料6】

資料

①事前配布資料

【資料1】「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価報告書（平成30年度）」及び「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度に対する国分寺市地域福祉推進協議会の意見・感想と市の考え方」

【資料2】令和元年度「委員自己紹介・取組シート」集（自己評価）

【資料3】令和元年度第2回国分寺市地域福祉推進協議会議事録

②当日配布資料

【資料4】令和元年度第3回国分寺市地域福祉推進協議会参加者名簿

【資料5】グループワークシート～活動への想いをシェアする～

【資料6】国分寺市地域福祉推進協議会令和2年度委員への御継続及び委員候補者の御紹介について（お願い）

【チラシ】・「福祉のしごと 相談・面接会」

- ・「令和元年度地域福祉コーディネーター活動&報告講演会『気づく』『つなぐ』『つくる』支え合う地域づくり学習会から次のステップへ」

開会 午後6時30分

開会あいさつ

原会長より開会の挨拶を行った。

1 「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価報告書（平成30年度）」及び「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度に対する国分寺市地域福祉推進協議会の意見・感想と市の考え方」について 【資料1】

事務局（米田地域づくり担当職員）より、資料1について説明。「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価報告書（平成30年度）」18ページから、「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度に対する国分寺市地域福祉推進協議会の意見・感想と市の考え方」として、昨年の第2回地域福祉推進協議会で出された意見・感想及び市の考え方をまとめている。

2 今年度の取組の振り返りについて【資料2】

事務局（米田地域づくり担当職員）より、資料2について説明。

グループワークテーマを「活動への想いを共有する」とし、活動を始めたきっかけや思い、参加者のニーズ変化や活動上の課題などについてグループにて意見交流を行う。グループワークの前に、山内委員及び林委員より取組の紹介を行った。

山内委員：社会福祉法人AnnBeelは、平成17年にNPO法人として事業をスタートした。それまでは、障害を持つ小・中・高校生の放課後の余暇支援を行っていた。高校3年生の卒業後の長い人生への支援や、安定した就労の場づくりを目指す思いが、AnnBee立ち上げの一番大きなきっかけである。

立ち上げ当初の利用者は3名で、活動場所不足や、利用者より職員が多いこともあった。厳しい運営状況であったが、とにかくみんなで一緒に仕事をするとの思いで活動を続け、つらいという気持ちはなかった。事業開始から15年の間にNPO法人から社会福祉法人へ移行し、現在全事業で利用者は100名を超えている。頑張っ一緒に仕事を続ける中で、国分寺の多くの方々とつながり、助言や時には叱咤の指導など多くの支えを得られたことは、活動を続けてきて一番良かったことだと感じている。今この場で皆さんと顔をあわせていることを始め、今後とも国分寺で多くの方とつながり合っていきたいと思う。

課題としては、働き手不足もあるが、若い支援者の育成に難しさを感じている。我慢強い努力をを求める考え方とは別の指導のあり方について模索している。また、障害者理解の促進として理事長の方針により、支援スタッフの子どもたちが下校時に「ただいま」と法人施設に立ち寄り取組を始めたところ、友だちを伴うようになり、今では地域の未就学児から中学生と大人がAnnBeelに遊びに来ることが当たり前となった。障害者理解のためではなく、当たり前で育つ場所にたまたま障害者がいる、という開かれた施設でなければならない点が課題であり、夢であり、理事長の強い思いである。少しずつ広げていきたい。

施設でのお菓子作りにあたり、障害があっても一般社会の人と肩を並べ、国分寺駅の丸井で販売できる商品作りを目指した。丸井の方からアドバイスを得ながら、実現することができた。障害があるから仕方がないではなく、おいしい、素敵だと支持され、障害者施設の商品と知り、更に評価が上がれば大成功だと思う。お菓子以外の商品も製造販売しているが、まだまだ小さい施設で、他の事業所に比べ歴史も浅い。指導やアドバイスをいただき、今後とも皆さんと共に活動を進めていきたい。

林委員：“社会を明るくする運動”推進委員会の活動を紹介します。小学生に種まきを手伝ってもらいながら毎年夏に作るひまわり迷路を開放し、子どもから大人まで楽しんでいただいている。また、毎年2回実施の市内小・中学生による吹奏楽のコンサートを通して、更生保護、犯罪予防についての周知活動を行っている。

私が“社会を明るくする運動”を始めたきっかけは、保護司というボランティアを引き受けたことからによる。保護司の仕事は、保護観察の仕事と環境調整、そして“社会を明るくする運動”の三本柱になっている。保護司会活動の一環として“社会を明るくする運動”にも主軸を置いて活動している。

“社会を明るくする運動”は法務省主唱の活動で、内閣総理大臣のメッセージの周知を始め、国・各都道府県・各市区町村等を単位とする推進委員会により、活動を推進している。更生保護女性会やBBS(Big Brothers and Sisters Movement)の会等のボランティア、市内各種活動団体を中心として“社会を明るくする運動”を推進している。日本国内どこでも必ずある活動で、来年には70周年を迎えるが、認知度が低いことが最大の課題である。認知度が低い原因として、更生保護というテーマの難しさや内容がデリケートであることが考えられる。更生保護とは、刑務所や少年院を早めに出所した人が再び犯罪等でつまづくことがないように、保護司が月に2回以上面談を行い、社会で罪を犯さない人間として普通に生きていくことを伴走者として支援する活動である。そのため、なかなか街中で紹介することが難しい。例えば、近所に住む青年をしばらくぶりに見掛けて声をかけたところ、覚せい剤で逮捕され刑務所に3年半入所し、昨日出所したと聞くと、温かく迎え入れることに戸惑いや怖れを感じることもあると思う。しかし、再び犯罪をさせないためにも地域で居場所を作り、孤立させないことが大切である。私たちの活動では、失敗した人を迎え入れ、更生に向かう手伝いを行っている。

国が更生保護・再犯防止に力を入れている理由として、刑務所入所者10人中再犯の人が約6人、初犯の人は4人前後である。少年院や刑務所の入所者に必要な費用は毎月一人当たり約25万円であり、私たちの税金から賄われている。再犯防止で6割程の費用をゼロにし、福祉関係等にまわせる可能性もある。少年院や刑務所から早めに出てきた人を排除せず、もう一度やり直すチャンスを与えることに対して関心が向けられることで、治安も良くなるのではないかと思う。

刑務所内で模範的な態度をとっている受刑者は、刑期よりも早めに出所することができる。少年院でも刑務所でも早めに出所する人は、立ち直りの見込みのチャンスが非常に高い。しかし、刑務所出所後の就職が困難であるため困窮し、再び刑務所で過ごそうとする人もいる。私たちの町や地域で出所後の人を助けることが重要であるが、更生保護について伝えにくさがあり、広く社会の理解を深める“社会を明るくする運動”は来年70周年を迎えるが、知名度が低いというジレンマを感じている。更生保護や再犯防止が、日本の社会や地域にとってとても大切であると知ってもらう機会を更に増やしていきたいと考えている。現在市内で大きな活動として毎年、小・中学生や保育園児等の子どもたちを対象にイベントを開催しているが、やや話が難しいところもある。子どもの同伴で来場した人も含め、広く啓発活動を行っている。

国分寺市は皆さんのおかげで治安が良い。4年ほど前の数字であるが、都内の国分寺市と同規模の地域で少年犯罪による保護観察処分の子が34人である中で、国分寺市は4名、約8分の1である。また4名中数名は転入者で、国分寺で育った子への保護観察は極めて低く、現在も同様であり、とても珍しいと思う。皆さんの活動により具体的には見えない良い影響が生まれ、犯罪件数が少ないのではないかと思う。また、国分寺市は今のところ薬物の保護観察対象者もない。栃木県の女性専用刑務所では全体の3割が窃盗、そして3割が薬物と相当多い(7割近くが窃盗と薬物で占める)。国分寺市は、皆さんが地域の方々と関わり合う取組により、治安の良さにつながっているのだと思う。

保護司として皆さんに伝えたいことが一つある。私も含めて、大小の失敗を日々繰り返しながら生きている。刑務所に入ってしまう失敗は、少しレベルが違うかもしれないが、自分で失敗をしながら生きていて思うのは、いつからでも、何回でもやり直しができることを信じて出所した人と接することで、良い結果につながると感じている。更生保護のこうした理念を広め、“社会を明るくする運動”の目的を達成していきたいと思っている。

地域福祉コーディネーター：3月24日（火）午後2時から午後4時30分まで、リオンホールにて開催する「国分寺市／地域福祉コーディネーター presents 令和元年度地域福祉コーディネーター活動報告&講演会『気づく』『つなぐ』『つくる』支え合う地域づくり学習会から次のステップへ」についてお知らせする。昨年10月及び11月に市内の東西2か所において開催した地域福祉コーディネーターの学習会では、地域づくりの必要性やつながりができることの良さなど、地域づくりの基本を学んだ。活発に意見が飛びかい、笑い声も聞こえる楽しい時間となった。今回は次のステップへとして、地域福祉コーディネーターの一年間の活動報告と、武蔵野大学人間科学部社会福祉学科の熊田教授を講師に講演会を開催する。地域福祉コーディネーターと地域住民との関係性や役割について講演予定である。

3 グループワーク～活動への想いをシェアする～【資料5】

事務局（米田地域づくり担当職員）より、資料5について説明。活動地域が近い方を意識したグループ構成である。グループの交流内容を全体発表する時間を省略し、自由に意見を交換。

グループワークまとめ

1 活動のきっかけ

- ・その人らしく暮らしていける安心な地域づくりに寄与したいと思った。
- ・自分の家族が元気になる活動や、情報交換ができる活動が必要だと思った。
- ・お世話になった人や地域の役に立てるよう、自分にできることを頑張りたいと考えた。
- ・資格や経験を活かせる活動がしたいと思った。
- ・地域でのつながりを作り、人と関わりたいと考えた。
- ・社会の偏見に疑問を持った。
- ・与えられたお金でお菓子やおもちゃを買ってしまう子どもに、栄養のある食事を提供しようと思った。
- ・認知症や障害等の状態になっても、それまでの人生と切り離されずに生活することに関心を持った。

2 活動をしていてよかったと思うこと

- ・地域でのつながりに励まされ、情報交換を通じて地域への関心が深まった。
- ・感謝してもらえた時や、高く評価された時に喜びを感じる。
- ・活動により励まされている。人間として成長することができる。
- ・子どもたちが会いに来てくれること。
- ・活動の中で、普段見せない表情や笑顔に出会うことや、働きかけにより、支援される側からする側になるような結果が出せること。
- ・周囲の理解が進むなど、取組の成果を実感し、喜びを感じることができる。

3 難しいと感じること

- ・居場所づくりや、必要な人に必要な支援を行うことに困難を感じる。
- ・ニーズ変化などに対応した活動内容の見直しが難しい。
- ・後継者不足や人材育成に時間がかかることにより、体制の継続が難しい。
- ・業務上のルールや分野で行政の管轄が異なることに課題を感じる。
- ・課題への理解が進まず、違い受け入れることに難しさを感じる。
- ・財政的に余裕がなく、活動の継続性に困難が生じている。

4 どのような人に活動を広めたいか

- ・思いを共有できる他団体や多分野の人
- ・必要な支援について理解を深めるため、支援される側と地域の双方の人
- ・活動に共感してもらい、担い手として声掛けができる多くの人
- ・地域で困っている人や、困っていると言い出せない人
- ・心が満たされず寂しさを抱えている子、頑張っているお母さん、一人で過ごす高齢者等
- ・地域とのつながりが薄く、支援を必要としないと考えている人

4 国分寺市地域福祉推進協議会令和2年度委員への御継続及び委員候補者の御紹介について 【資料6】

事務局（米田地域づくり担当職員）より、資料6について説明。第3回地域福祉推進協議会をもって、今年度の全体での活動は終了。来年度も引き続き、当協議会の発展と地域福祉の推進のため、委員の参加を依頼。来年度の推進協議会第1回は、令和2年6月30日（火）午後6時30分より、リオンホールにて開催。今年度同様に年3回を予定。

牛田委員：昨年9月に国分寺市内の社会福祉法人及び社会福祉事業所を組織化し、「国分寺市社会福祉法人連絡会」を結成した。その最初の活動として、国分寺市と共催で2月23日（日）リオンホールにて「福祉のしごと 相談・面接会」を開催する。福祉施設や事業所においても人材確保が非常に厳しく、開催周知への御協力をお願いする。

原会長：令和元年度地域福祉推進協議会の最終にあたるため、会長、副会長より挨拶をさせていただきます。

皆さん、この一年間大変ご苦労さまでした。皆さん方の協力により、一年間会長を務めることができました。また、今年度も貴重な意見や活動内容について共有させていただき、誠にありがとうございました。本協議会の目的でもある委員相互間の交流、情報提供、共有化に資すること大であったと思います。行政においてもこうした取組を参考としていかしてもらい、点から線へ、線から面へと本協議会での活動が充実、拡大していければと念じています。先ほど事務局から案内がありましたが、また来年もここで一緒に協議させていただきたいと思います。一年間ありがとうございました。

宮崎副会長：皆さん、一年間本当にありがとうございました。今年度も協議会に参加される委員が増え、地域に一番近い所で活動している皆さんと一緒に協議を重ね、地域の課題を一つ一つ共有できる有意義な時間になったのではないかと思います。私たちが目指す地域共生社会には、一人一人が抱えている問題を支援する個別支援と、地域の中で起きている様々な課題を地域の皆さんと一緒に解決していくという、二つの役割があると感じています。この協議会も更に委員が増えることで、地域の活動も顔の見える関係も広がり、国分寺市の地域福祉をより高める場になっていくと思います。今年度、委員の皆さんはこの協議会の中で、顔の見える関係性を築くことができたと思います。来年度も、また皆さんとここに集うことができるよう願っております。ありがとうございました。

事務局（米田地域づくり担当職員）：原会長、宮崎副会長の一年間のご尽力に感謝し、令和元年度第3回国分寺市地域福祉推進協議会を終了する。

閉会 午後8時30分